

東京片貝会報

発行所
東京片貝会
東京都江東区高橋5-1-313
電話 (632) 0156

よい年を、みんなで楽しく

新年会ご案内

昭和61年1月26日(日)

隆盛のシンボル、縁起のよい寅年を、お健やかに迎えられたことと存じます。

互いに健康を祝し、かつ益々の発展を祈念して、恒例の新年会を開催致します。賑やかに盛りあげ、楽しい会合にしたいものです。どうぞ、お誘い合わせの上ご参加ください。

今回は皆様から持ちよりのお年玉を、ご寄贈いただいで、豪華に福引をやりたいと思います。恐縮ですが、当日お持ち下さいますよう、お願い申し上げます。返信に内容をお書き添えいただければ幸いです。

一、日時 61年1月26日(日) 午後一時(正午より受付)

一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-6)
営団地下鉄「湯島」(千代田線)、「上野広小路」六分

一、会費 四〇〇〇円(料理・果物・飲み物・福引)
返信は一月十五日までに到着するようお送り下さい。

同級会だより

十二同志会 10月25・26日
美しい紅葉に埋もれている、苗場山麓の貝掛温泉に清遊した。こ

こは湯沢よりゆく秘湯として、注目を浴びている。東京と片貝から
十三名が参加して、懇親を深めた
和風会 9月10日
満五十五歳を祝って、各地から
九十余名参加した。神社本殿でお

抜いを受け、忠魂碑前で記念撮影
さじき席について樽を抜き、互いの健康を祝しあった。昼の大スタ
ーメインを揚げて、意気大いにあ
がった。
その前、午前中に有志だけで、
小宮治郎さんの案内で、見学をし
た。仲使山、筆塚、太刀川の墓
榎観音、池津の真福寺など、感銘
深い半日を過ごした。
和好会 6月15・16日
新緑の美しい佐渡へ、みんな



安達竜作氏を偲ぶ

今の東京片貝会は、母校同窓会
東京支部を本拠としている。戦前
遠い東京で働いている人達の、心
のより所として、大切な存在であ
った。
それが戦争で中断してしまっ
た。戦後復員してこられた松井
吉氏が、都内の同窓を個別訪問し
て会の発足に尽力された。この仕
事を一番支援されたのが安達さん
だった。
自分の経営していた事務所を提
供されたり、名簿作成やら、会の
企画に協力されていた。
松井さんの仕事が軌道にのりか
かったところ、三年で物故された
その後を安達さんが、十三年間も
会の運営をひきうけられた。その
間、安達さんの下で働いていた、
長谷川さんの腕の力が大きかった
のも見逃がせない。長谷川さんは
他眞出身であったが、安達さんの
愛顧心に共鳴して、私も片貝人に
楽しい旅行を乗んだ。

若杉会 5月11・12日
卒業三十年を記念して、湯沢温
泉で懇親会を開いた。六十名近く
が出席。恩師川内・水島先生も招
待して、盛会であった。
◆やせかまじと 解説◆
近日出版予定
三年間編集を進めてきたが、来
春早々出版される。郷土史研究会
発行会長長原芳郎 B 6三七四頁

なっていました、と述懐していた
ことがある。
年一回の懇親会の運営は勿論、
会員経営の事業所で働いている後
輩の、永年勤続表彰、仲使山に松
風亭を建てたり、みこ爺の東京実
演など皆さんの協力、ご支援があ
ったからでもあるが、安達さんな
らでは、どうていなし得なかつた
ものと思ふ。
身内の方が、人一倍淋しがりや
だったというように、人間味溢れ
る一面があった。それだけに、こ
よなく故郷を愛し、故郷の発展を
いつも念じておられた。
生前、自分が建てておいた仲使
山の墓地に永眠されることになっ
た。故郷の将来をいつも案じてい
た安達さんの面影が、今も鮮烈に
生きている。
会にとって、惜しい人を失って
しまった。(写真・総会当日)

会の動き

第26回総会 5月26日
東京新潟県人会館にて
2面参照
母校を励ます会 役員会
5月26日
午前11時20分から総会開始まで
今後の運営と来年の記念講演会に
ついて話しあった。
高野三郎氏逝去 6月22日
長老として、会の発展の為に尽
された。近年は病氣加療のために
入院中であった。九十三歳。葬儀
は7月6日寿松院で、盛大に挙行
された。勝又会長が代表して会礼
総会反省の役員会 7月27日
会に貢献した人の慶弔に対する
成案を作りたい。会報が会員を結
びつけるのに役立っている。組織
を強化するために、年次代表との
関連を深めるべき、など、今後の
運営について話しあった。十九名
出席、新潟県人会館にて
県人会納涼の夕 8月4日
榊山荘にて。会から勝又会長、
相崎勇・芝五・黒崎各副会長、大
矢・高橋監査の六名が参加した。
安達竜作氏逝去 9月28日
7月下旬外出先で発病、入院
加療中であったが、80歳で逝去。
本会が今日のように盛大になった
基礎を築かれた。会からは井原
問、相崎副会長、佐藤前会長、小
林、大矢理事が弔儀に列席した。
関係記事、同面参照
母校を励ます会講演会 11月1日
講師 医学博士 小野勇先生
昭和23年卒、詳細は3面参照
役員会 11月2日
主に新年会の行事計画について
話しあった。県人会館にて、十五
名出席

ふるさととの香り豊かに

楽しく 春の集い

(第26回)

東京新潟県人会館にて

5月27日(日) 1時

夜来の雨もあがって、ますますのよい日和となる。会員の皆さんは、正午過ぎから続々と参会されて、会場はいきりけるほど。

年に一度の総会 母校に図書贈呈

黒崎 正さんの司会で開会。まず相崎(男)副会長の始めのあいさつの後、勝又会長から、今後の計画として、名簿の改訂、慶弔規定を設けたい旨の提案があった。会計報告も済み、佐藤前会長が母校を励ます会の現況を報告、続いて佐藤祐一代表から、小中学校へ図書代金として、それぞれ十



みんなで肩を組み、母校の校歌を精一杯歌っていたのだが、何にもまして嬉しかった。かくて5時近くまで続いた懇親会も、盛会のうちに幕となった。ふるさとの現状と将来 (来賓あいさつ要旨) 敬称略 山田敏夫(協議会副会長)

円を寄贈した。続いて、来賓の皆様から郷里の様子を、それぞれの立場でお知らせいただいた。(別掲) 小千谷市長、浄照寺様からの祝電披露。相崎(善)副会長のあいさつで、ひとまず総会を閉じた。

楽しく懇親

広井顧問の乾杯で懇親会となるふるさとの方々と、一年ぶりに会って話さう喜び、久々に先輩や友達と再会した懐かしい思いが大きな渦となる。つきつきに歌が出むんむん盛りあがる。今回は陽光会(今年42歳)の人達から多数参加されて、いっそう賑やかになっ

市の教育課長を退職して、協議会の役職を引受けることになった町のお役にたつよう努力したい。本田善治(市議) サントリー文化賞(百万円)を受けて、浅原神社にゲートボール場を二面作った。秋祭りの四尺玉は必ず揚げます。五十歳の組は十号五五号発揚げるぶらぶらで支援を。関 広一(市議)

副議長に就任、片貝の名譽にかけて頑張ります。信濃川五期発電工事が着工になった。三洋電子は三千名規模のところ今百五十名を採用して、試験操業中です。又松下電装は千名規模で来年の秋には工場が完成の予定。今後の受入れ体制を確立したい。私も五十歳になって、花火を揚げます。ぜひきて下さい。

丸山良平(体育協会会長) 秋に関越道路が完成すると、小千谷インターから二時間半で東京に着く。中学裏のグラウンドに照明設備ができます。小学校の校舎改築も、近く実現の予定、また仲使山の墓地も今整備中です。太刀川家の菩提寺(観音寺)は七百五十万円かけて修復中です。本田初太郎(農協組合長) 農家六百五十軒の半数は、他人に依頼している。専業者は二十軒

足らずしかない。深田はこんど整備されて乾田になりました。浅田太郎先生が有線放送で、やせかまとを解説された。このテープを佐藤さんがまとめてくれて、こんど出版することになった。記念の会を開くが、皆さんからも購読をお願いします。本田一郎(小学校長代理) 毎年図書をご寄贈、感謝しています。洋文庫として活用、読書感想文が受賞になりました。文部省の指定校になった道徳の火を消さないよう、正しい子に育てたい。相模では県内優勝。藤田惇一(中学校長代理・教頭) 図書をありがとうございます。図書活動がますます活躍をしている。特にバレーボール、庭球、バスケットが好成績です。美術・吹奏楽部も頑張っています。山村理策(ホテル施設委員長) ふるさと会館ロビーに、史料陳列ケースを整備の予定です。お出の際には、ぜひ観覧下さい。波方一二郎 (新潟県人会副会長) 私達が郷里と連絡を密にすることとは大変意義深いことと思う。片貝会の益々の発展を祈ります。出席者(九二名)

安達宗吾、安部盛治、星野三作 ○昭和2210 相崎勇次、松井重治、早川松太郎、吉井武二、前田ヨシ、浅田喜八郎、安達武、芝五郎、小野塚マツ丸山春、芋川とし、石黒佐忠太藤田睦子、佐藤フミ、相崎善次郎朝妻ヨシ、鶴田リツ、黒崎米太郎小宮竹次、大内登世、黒崎敬五郎吉原彦作、黒崎孝造、三重堀新一松井エウ、田口タス、芝三四司勝又、功、佐藤彦一、堀井豊作、小宮良夫、浅田健治(片貝)

○昭和1120 高橋四郎、青木富代、相崎ヨシ、山田チエ、丹治きみ、山口ミナ子小島京子、佐藤道雄、松下利夫、浅田猛、清水ミイ、三重堀清吉井寿、神林全子 ○昭和2130 山岸麗昭、黒崎正、大塚順一佐藤祐一松岡規子 ○昭和3132 藤塚 悟、大塚国夫、小宮善興、芝 満雄、堀井 猛、吉井信三、諸我時夫、以下6名片貝(陽光会) 佐山英一、品田 清、大塚美知男本田一也、神林洋子、新野陽子

○来賓 箕輪みね先生ほか十名ご出席。お話しいただいた方の要旨は、別記。 ○大正 安達竜作、高桑キイ、広井三代次、佐藤正雄、吉原ヤウ、小野塚健次、浅田兼次、吉原賢策、渡辺左武郎、佐藤量八、相沢尚次、大矢福次、神林徳次、水内脩治、三重堀繁蔵



奥湯河原の名湯 青 巒 荘

安達竜作著・奥湯河原の道 価800円 (奥湯原温泉を開拓した郷里の先輩の輝かしい一生を綴る) 宿泊申込・書籍購入は 広井三代次氏まで 神奈川県湯河原町宮上679 (0465-63-3111)

高級ハンドバッグ (各種製造販売)

元祖 高野三郎(明治35・寺町) 二代 高野益吉 義父の遺志をつぎ会員にさせていただきました 台東区鳥越2-9-4 (03-861-2647)

建築請負 設計・施工

三重堀繁蔵(大正15・寺町) 足立区梅島2-3-2 (03-887-1926)

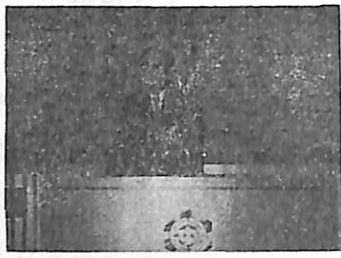
私の好きな若者・嫌いな若者

母校を励ます会・第四回記念講演会
講師 医学博士 小野 勇先生
11月1日午後2時40分・中学校

大きく成長した校庭の桜並木の紅葉が美しい。
暖かいなご昼後、児童生徒のほか、小野先生の同級生や、一般の町民も多く参加して、盛会だった。

私の少年時代

久方ぶりで故郷に帰ってきて、大変懐かしいです。今でもよく町並みの夢を見ます。



中学の頃、神社の境内で暗くなるまで野球をやっていた。本田貞一郎先生が野球部長で、しごかれたいものです。

夏は沼田川で泳ぎ、冬は二つ坂の頂上から直滑降で下りてくる。その爽快さ。始めて土が現れてきた時の喜び。忘れられないことです。

長岡高校の頃

高校へ入ってから、始めて勉強らしい勉強ができたように思う。成績順にクラス編成されるので、頑張ったものです。

幾何が解けないで、考えこんでいるうちに夜明けとなり、あわてて来迎寺駅にかけつけたことも、幾度かありました。あまり自慢話になるからこれ位にして……。

今の若者は

国立がセンターの職員は八百人おり、看護婦が毎年四、五十人ずつ入ってきます。つまり、それだけやめていくということでもあります。九州や東北から出てきた人達も、一年経つとみんな都会人になってしまふ。そして、遊ぶために勤めているのではないかと、思うような者もいます。

今の若者は、自分の考えをはっきり主張するようになった。それはよいことです。しかし、自分の好きなことは熱心になるが、地味で好まない仕事は、後まわしにして逃げよとする。

君達も、これから進学し、就職するわけだけれども、単に有名学校とか、有名会社ということだけでなく、自分のやりたい仕事をやるための、ほんのりた味の進学であり、就職であって欲しいと思う。私達は集団生活をしているのだ

健康のこと

私達は親から受継いだ体質があります。たとえば血圧の高低とか糖尿病になり易いとか。しかしその人の努力次第で、そういう欠点を克服して、自分の寿命を伸ばすことができます。過食を慎み、塩分をとり過ぎない、酒はほどほどにする。中でも煙草

日本の将来

がんと大敵です。特に若い頃から喫煙すると、二十年は命を縮めると言われています。

がんセンターには、外国の医学研修生がたくさんきています。その人達は、日本から見れば後進国ですが、そのまじめな態度には、むしろ私達が学ぶべき点が多いように思う。

今回58名の方より

基金(一五万円)をいただきました

母校を励ます会・その後

五月の総会で、第3回目の図書を、小中学校へ贈呈しました。このほど左記の図書が購入され、児童生徒の皆さんが利用し、喜ばれているとのことです。

- ・中学校 詩のアルバム 12巻
- ・小千谷の伝説
- ・日本大百科全書(昨年に続く)
- ・小学校

方かよい、という声も聞きました。講師の方には、交通費も謝礼もさしあげず、無償のご奉仕となっております。

何とか会を永続させたいという願望から、度々皆様と呼びかけてお願いしているわけです。ご迷惑に思われていることですが、どうか、引き続きご支援をお願いします。

本年5月から月末までの間に送金下さいました方々は左記の通り。ありがとうございます。

○大正 丸山貴司(2) 榎山 すま(2) 佐藤正雄(2) 広井三代次(2) 錦織ツタ(3) 高野朝五郎(3) 安原賢策 長谷川セイ

○昭和22 菅野リヤ(2) 藤塚栄三郎(3) 石上健次(2) 相崎善次郎(2) 高橋 清(2) 勝又 功(2) 黒崎孝造(2) 小野塚レツ(2) 佐藤彦一(3) 城取八重子(2) 高橋忠夫(2) 吉原菊枝(2) 鈴木より子(2) 堀井豊作(2) 三井ミヨ(2) 市トミ(2) 森本比夫

○昭和11 萩原ます子(2) 内山キミ(2) 佐藤修司(2) 横田トシ(2) 佐藤広司 関 啓子(2) 中野まちよ(2) 内海光子(2) 青木富代(2) 丹治きみ(2) 相崎よし(2) 野中広司(2) 松下利夫(2) 豊島文枝(2) 山岸雪子(2)

自然の中の人間シリーズ30巻 学校から、丁寧な礼状が届けられましたので、ご報告申しあげます。 これからもよろしく 充足以来一か年半の収支は、別掲の通りです。 記念講演会もなかなかの好評で 五回で打切ることなく、継続した

母校を励ます会会計報告 (自 昭和58.5.1 至 昭和60.11.30)

収入	¥1,418,275	支出	¥975,700
基金	(延246名) 1,183,200	寄贈図書	400,000 (2回)
利息	58,689	寄贈演劇	30,000 (3回)
		印刷・郵券	33,900
		昭60.5.1~60.11.30 (前回以後)	
基金	(延58名) 150,000	寄贈図書	200,000 (3回)
利息	(前取分含む) 26,386	寄贈演劇	10,000 (4回)
(現在高)	¥742,575	印刷・郵券	1,800

- 菅山キヨ 榎山二(2)
 - 小川エイ子 友田勝良
 - 藤塚文頭(2) 黒崎紀雄(3)
 - 小高 君 小川裕記子(2)
 - 松本キイ 山崎英輔(2)
 - 昭和31 森坂ミツ 内藤眞子(2)
 - 大阪府交野市 大矢三郎
- お詫、会報29・30号に載せるべき左の六氏の報告が洩れていました。記してお詫申します。
- 佐藤孝二、大矢常吉、谷口イク、吉原栄一、山口福次(3)
- 特別会員 太刀川太郎
- 注(一)内の数字は回数を示す

60ねん春から秋 ふるさと・は・今

スポーツの町・片貝

ゲートボール場完成

5月25日
サントリー文化賞を受けた百万円で作った。浅原神社の花火観覧席の前に一面。この日関係者がたくさん集って竣工式をあげた。春と秋に大会が開かれる。

同窓会球技大会

8月16日
毎年総会を兼ねて開かれる。各年次別にチームを作って、バスケットとバレーボールの競技が行われた。お盆休みに帰郷した人達も大勢参加して、和気あいあいの楽しい大会であった。中学校で



町民大運動会 10月20日
相憎の天候だったため、中学校の体育館で行われた。

屋内のため、リレーや競走には

十分な活動はできなかったが、綱引き、大玉送り、びんつめレースなど、却って大変な熱気となって盛りあがった。

町裏が二年連続優勝、以下四之町、一之町、三之町、鴻巣、池津一之町、五之町の順位となった。



町民駅伝大会

11月3日
今年で6回目を迎え、41チームが参加した。全町民が沿道で盛んに応援する中を、審判長の車が健闘ぶりを見守っていく。中学チームを主力として、町内の小学生壮年までが参加して、文化の日の行事を盛りあげた。

上位チームに農協よりメダルが又体協・同窓会賞もおくられた。

ナイター施設点灯11月10日
スポーツ広場で工事中のナイター施設ができあがって、点灯式が行われた。

五種目完全優勝

6月25〜28日
中学校はこの夏、市内の球技大会で初の五種目に全勝した。バレー・野球・卓球・庭球・バスケットボール。

盛んな文化活動

去能まつり 6月30日

昨年に続き小学校体育館で、中学の吹奏楽部が初出演で、人気をさらった。素人はなれの熱演で、五百人の観客は酔いしれた。

三股合奏、楽団十字星、民謡、日本舞踊などの八団体が参加した

中学校吹奏楽で金賞
8月6日
中越地区の中学吹奏楽コンクールに出場して、見事金賞を受賞した。益々の向上が期待されている。

カラオケ大会 8月14日
浄照寺の境内で、お盆の行事として始めて行われた。寺が片貝へ移ってきて、本年で三百六十五年になる、それを記念して。

五十名定員の出演者も、飛入り希望が出て、断わるのに悲鳴をあげるほど。境内を埋めた聴衆の盛んな拍手で湧きに湧いた。

チレツ子、指定曲、自由曲各部に、それぞれ賞がおくられた。

盆踊り大会 8月15・16日
浅原神社境内で、女子中学生も特別参加して賑わった。仮装踊りに十四チームが出て、始めての優勝旗を農協婦人部が獲得した。

文化展 11月3・4日
ふるさと会館で。

絵画、書道、陶芸、盆栽、写真、生花など、まことに多彩の出品で

一階の広間はいっぱいになった。一階広間には、一年中丹精した菊鉢でぎっしり。いずれも見事なできばえの中に、金・銀・銅賞の花がひときり美しかった。

現代日本画展 11月23・24日
町に日本画鑑賞会(本田初太郎氏会長)がある。会の主催で、農協ホールを会場として、日展に入選したり、特選となった画家の作品が展示された。

二百間とも鑑賞の人で賑わった郷土資料展示。ふるさと会館にて

会員だより

(敬称略)

松井平助(大6)

出席を楽しみにしていましたが心臓を悪くして、目下療養中。次回にはぜひ参加したい。

安達龍作・故(大6)

郷土に対する建設的意見を希望します。現実から離れた懐郷だけでは意義ありませんから。

佐藤又次(昭5)

昨年定年になったのを機会に、家族のいる群馬へ移住しました。皆様のご発展をお祈りします。

高橋忠夫(昭8)

多忙のため毎度申し訳ありません。皆さんよろしく。

中野みちよ(昭16)

いつもふるさとの懐しいニュース、幼き日に遊んだ友の名前など知らせてくれる会報。年と共にふるさとへの愛着は増すばかりです。会の発展をお祈りします。

氣田登美(昭19)

新年会で会長さんが言われるには、案内数に比して返信が余りに少ないのに驚きました。役員のご

世界一の四尺玉

十日は午後からかなりの雨で、みんなが気をもんでいたが、夕方やんだ。そんなわけで、予定が少しおくれ、十時十五分に待望の四尺玉は、曇りとともに見事開いた。まことに、一瞬の美しい大花環であった。

光の広がりがかろう少し欲しかった、という声もあった。

苦勞を思うとき、一枚のはがきにも感謝して、忘れずに多くの返事が寄せられることを祈念します。

新沢須美(昭24)

いつも会の運営にご尽力下さる幹事の皆様に感謝申し上げます。新年会には出席して、楽しい一日を過ごさせていただき、ありがとうございます。

小川イエ子(昭25)
会報のおかげで、片貝の実家より早く、片貝のニュースを知ることがあります。ありがとうございます。

黒崎 勝(昭28)
五年間宮城の支社に勤務していましたが、今度本社へ戻ってきましたので、出席できるのを楽しみにしています。

左記の方より会報に対する礼状をいただきました。

三井ミヨ・近藤ヤウ・笈川キヨ・宮沢道子・後藤イ子
山家美恵子
新社屋完成 藤塚悟さん(昭31)
会社の発展に伴ない、新社屋が完成した。8月24日に関係者多数を招いて盛大な祝賀会があった。

あとがき

十一月末に二回降雪をみた片貝も、まもなく本格的な冬を迎えようとしています。厳しい冬を、じっくりと過ごさず郷里の日々を改めて感じさせられた。

若い人達を、再び呼び戻したいという声か、強く要望されています。こんどの新年会には、たくさんのご出席を念じています。(S)